



第3回 「富士山への手紙・絵コンクール」 表彰式・講演会



発 行 省
建 設 省
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話 (0544) 27-5221

平成10年度 応募総数

<手紙の部>

部 門	総 数
小学生	低 766
	高 1033
中 学 生	825
高校・成人	413
総 計	3037通

<絵の部>

部 門	総 数
幼 児	477
小学生	低 915
	高 910
中 学 生	503
高校・成人	69
総 計	2874点

富士山に対する思いを手紙や絵に表現することにより、富士山と地域をいつまでも守っていくとする豊かな心を持った人と人の文化的な輪の広がりを目指すこと、また人々の富士山への思いを「まちづくり」に生かすことを目的に平成8年度から始めました。

第3回となりました今年度は、7月1日から9月16日の応募期間中に北は北海道から南は沖縄まで、全国からたくさんの方の応募をいただき、前回、前々回を大きく上回る作品数となりました。

10月29日には審査委員長の作家、村松友視先生を迎え最終審査を行い、最優秀賞・特別賞・優秀賞・佳作の計216点を決定し、12月6日富士宮市民文化会館大ホールにて表彰式を行いました。

また、絵の部に応募のあった全作品の展示も12月2日から6日の5日間行い、ズラリと並んだ富士山の絵が来場者を圧倒しました。

富士砂防工事事務所、富士宮市、同市教育委員会、富士宮青年会議所は共催で、「あなたの心を富士山へ」をテーマに第3回「富士山への手紙・絵コンクール」を実施しました。

世界に誇れる富士山を守っていくため、ゴミは必ず持ち帰ることなど（会場に配られた水溶性ティッシュもその一つです）私たちも自分たちで出来る身近なことから行動しましょう。



表彰式に引き続き、女性で初めて世界7大陸の最高峰登頂を成し遂げられた登山家、田部井淳子さんを講師に「富士山から世界へ...」と題し、スライドを多数用いながら講演をいただきました。

田部井さんは、自らの経験談も交え、富士山の環境、ゴミやトイレ問題について語ってくださいました。



受賞された最優秀作品は富士宮市及び富士砂防工事事務所のホームページにも掲載しておりますのでぜひご覧下さい。

<http://www.wbs.ne.jp/bt/fujinomiya/kyoi/tegami2.htm>

<http://www.fujisabo.go.jp/happyo3/index.html>

富士山への手紙・絵コンクール受賞者 (敬称略)

絵の部

手紙の部



【最優秀賞】

小学生低学年の部・(社)富士宮青年会議所理事長賞
加藤 完十郎
山梨県南都立米小学校1年

小学生高学年の部・富士宮市教育長賞
大森 はるか
富士宮市立西小学校4年

中学生の部・建設省富士砂防工事事務所長賞
横山 めい
富士宮市立富士宮第一中学校3年

高校生・成人の部・富士宮市長賞
水谷 照子
三重県桑名市

【特別賞】

静岡県東部地区内郵便局長賞
駿東郡長泉町

【優秀賞】

小学生低学年の部

御殿場市立御殿場小学校2年 兵道 美保

富士市立立見小学校2年 かみお やすは

富士市立立見小学校3年 深澤 京

小学生高学年の部

富士市立立見小学校6年 勝亦 景子

富士宮市立大宮小学校5年 森 幸子

富士宮市立大宮小学校4年 村松 由加

【最優秀賞】

幼児の部・富士宮市長賞

富士市立第一保育園5歳

小学生低学年の部・(社)富士宮青年会議所理事長賞

富士宮市立立見小学校3年

小学生高学年の部・富士宮市教育長賞

富士市立立見小学校6年

中学生の部・建設省富士砂防工事事務所長賞

富士宮市立大宮中学校2年

高校生・成人の部・富士宮市長賞

静岡市常葉学園短期大学

【優秀賞】

幼児の部

私立リレー幼稚園4歳

私立黒田幼稚園5歳

富士中央幼稚園6歳

小学生低学年の部

富士宮市立立見小学校2年

富士市立立見小学校3年

富士市立立見小学校3年

小学生高学年の部

富士市立立見小学校6年

中学生の部

富士宮市立大宮中学校2年

深澤 正明

小西 調弥

春山 拓也

佐野 律紀

米山 沙樹

石井 啓太郎

高野 靖波

後藤 健仁

勝又 理紗

荒木 由季

江端 祥子

永野 恵里香

深澤 美穂

伊藤 真里子

小林 彩

高野 慎一郎

早川 あゆ

大須賀 千晴

神谷 菜穂子

芳賀 由美子

愛知県岡崎市

愛知県春日井市

富士宮市万野原新田

富士宮市立立見小学校2年

富士宮市立立見小学校3年

富士宮市立立見小学校4年

富士宮市立立見小学校5年

富士宮市立立見小学校6年

富士宮市立立見中学校2年

富士宮市立立見中学校3年

富士宮市立立見中学校4年

富士宮市立立見中学校5年

富士宮市立立見中学校6年

最優秀
受賞者の
皆さん



天ぶら廃油でクリーン運転

「富士HEARTシステム」 実用化試験を開始

平成8年から始まった弓沢第3砂防ダム

などの耐久性や安全性及び環境等の調査を行うものです。

調査した所、黒煙は軽油に比べて半分以下という結果が得られ、2月中旬からの耐久性試験では、燃料に植物油の使用も考えています。ただし、実験区域内一面は、天ぶらの臭いが漂いました。

副ダムを対象とした試験施工が、平成10年11月に終了したことにより、本格稼働に向けた実用化試験を12月から実験線の急傾斜地(勾配26度、延長約50m)で開始しています。

試験は、駆動台車を無人(写真参照)で自動運転により繰り返し走行を行い、台車燃料を軽油から植物油(天

また、軌条の撤去時における植生等への影響を調査するために、一部軌条を撤去しました。



富士砂防事業費50億円を突破

《第3次補正事業に7億1千4百万円》

平成10年度の富士砂防工事事務所所管事業費は、当初の26億8千7百万円、総合経済対策に基づく第1次補正予算21億3千7百万円そして12月の第3次補正予算7億1千4百万円と合せて55億3千8百万円となり、50億円を越す大型予算となりました。

第3次補正では、現下の厳しい景況の状況を踏まえ、我国経済の再生に全力を尽すため、地域経済の実情に即しつつ、昨年度発生した大規模な土石流対策を中心に、投資効果の高い事業に重点を置いて、財源の重点的かつ効率的な執行に努めることとします。

第3次補正事業の概要

《環境に係る事業》

土砂災害対策として、大久保沢に溪畔の樹木等を生かした砂防設備を整備する。



大久保沢 溪畔林

《緊急防災に係る事業》

毎年頻発する土砂災害に鑑み、緊急的土砂災害対策として、弓沢川ダム工群を完成させる。



弓沢第4砂防ダム

《福祉、医療、教育に係る事業》

8月末の福島県「からまつ荘」等の土砂災害に鑑み、療養所や老人ホーム、保育園等災害弱者関連施設を保全対策に有し、土石流の発生の恐れのある大沢川扇状地において除石工等を実施し、下流域の安全を図る。



大沢川扇状地除石工

《情報通信、科学技術に係る事業》

土砂災害から人命、財産を守るため、大沢川等において、土石流監視用カメラ及び光ファイバー等情報通信システムの基盤整備を推進する。



監視カメラ



南西野溪対策の基幹となる 大規模二施設相次いで完成

富士宮市の弓沢川とその支川滝沢川では、土砂災害を防止する施設としてそれぞれ「弓沢沈砂地」「滝沢第2砂防ダム」が完成しました。

弓沢川は富士山の標高1500m付近に源を発しており途中左支川の滝沢川、大沢川、中沢川、そして久遠寺川を併せ富士宮市権現で二級河川潤井川へ流入しています。弓沢川や滝沢川では、河道は小さな曲折をくり返し水当たりの激しいところでは侵食により河岸が急な崖になっています。このように侵食された土砂は河床に堆積し豪雨時に下流へ大量の土砂を流出します。



弓沢沈砂地
(平成10年11月完成)

基幹ダムの高さ	11m
基幹ダムの幅	99m
貯砂量	67,000m ³



滝沢第2砂防ダム
(平成10年3月完成)

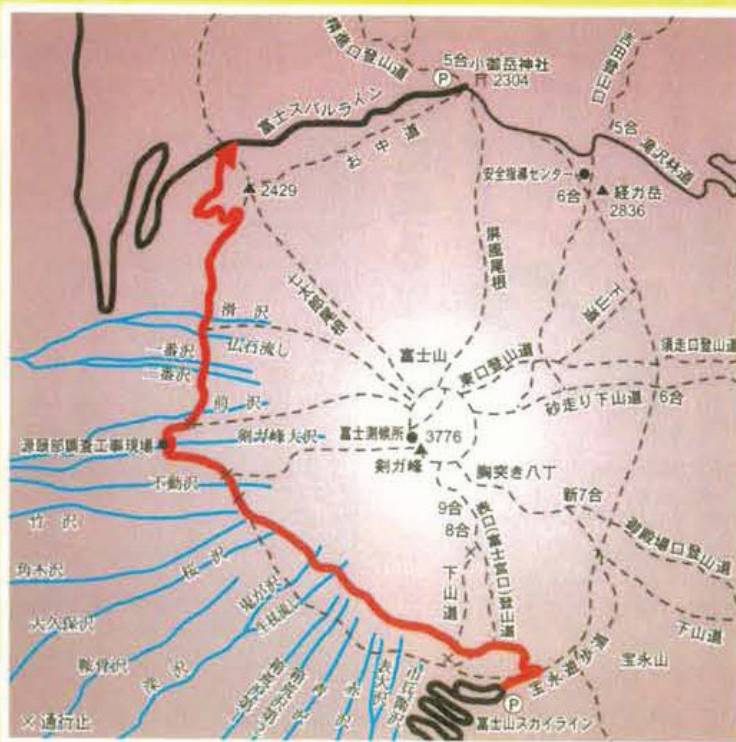
ダムの高さ	17m
ダムの幅	78m
貯砂量	72,500m ³

普段は水の流れていない弓沢川も大雨が続くとたくさん土砂を含んだ水が流れ出し、あふれ出した土砂によって住宅や学校などを埋めてしまいます。このような危険な土砂を捉えるための砂防施設として沈砂地は砂防ダムの適地がないため河床を掘り下げたものです。

「弓沢沈砂地」は、富士宮市山宮地先に平成4年5月に着工し、7年をかけ湯沢橋のすぐ下流に完成しました。

「滝沢第2砂防ダム」は、弓沢川合流地点より2.4km程上流に施工されました。このダムは富士砂防工事事務所がこれまで施工した砂防ダムの中で一番高いものです。

御中道180°山行調査報告



今回(10月20日)の行程 →

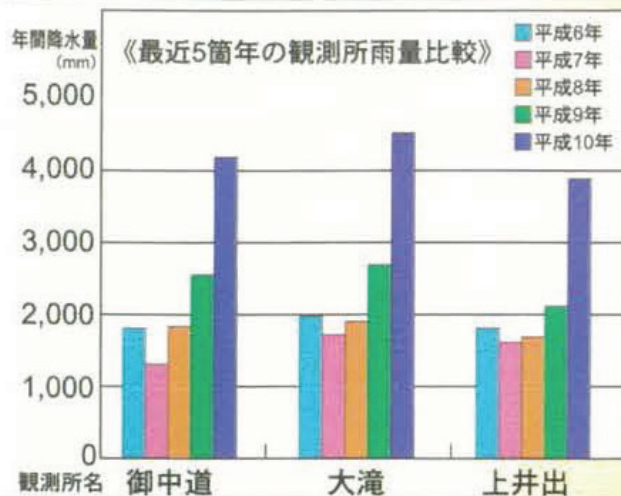
富士山西側の野溪には、大沢崩れの大沢川、弓沢川、風祭川のように山麓を經由して市街地を縦断し潤井川へ流下している河川と、芝川のように富士川へ流下している河川とがあります。富士砂防工事事務所では、下流域の土砂災害防止のための基礎調査として、富士山御中道の東西南北の植生の違いや植生限界の観察を行い、地質の特徴を掴み、野溪の荒廃状況を調べるために毎年御中道を踏査しています。

平成10年10月20日は、富士宮山岳会の木ノ内会長とタフガイの小沢さんに同行して頂き、富士宮口登山道五合目より出発し、雲海荘を経て六合目から西側へ御中道を巡りました。御中道の二周を3週とすれば、今回は180(約10時間)の山行でスバルラインの奥庭までの行程でした。

六合目から西へ立掘沢、市兵衛沢、表大沢、赤沢の順で横断しながら上流側と下流側を観察します。ここまでは弓沢川に流下しています。

管内の雨量、例年の約2倍を記録!!

平成10年は非常に雨の多い年でした。大沢にある富士砂防工事事務所の各観測所でも、平年の2倍以上、4,000ミリもの雨量を記録しました。
(観測所の位置は前号の「第20号」2面参照)



(平成10年度工事完成写真)

平成10年度 富士山源頭部調査工事

富士砂防工事事務所では、富士山大沢崩れ対策として将来本格的に実施を計画している大沢川源頭部峡谷域における対策工事に先立ち、実施にあたり考えられる様々な課題や問題点に対処するため、昭和57年度から、標高2,050m～2,150m付近の高標高で工事用道路もなく、且つ、気象条件からも非常に厳しい大沢川源頭部峡谷部において調査工事を実施しています。

調査工事は気象条件の制約から二年を通した施工はできず、例年7月末から11月末までの4ヶ月間の施工となり、今年度は、側方斜面の崩落や落石による災害を防止する対策として、ロープネット工やリングネット工等の新たな工法も取り入れ、また、危険な場所への作業員の立ち入りを極力なくすための無人化施工の試験等も実施しました。今年度は夏場に雨が多く、天候不順が続きましたが、事故もなく、計画した工事が工期内に無事完了することができました。

来年度は、崩壊地を拡大するといわれる溶岩の段差(滝)の崩壊を防ぐ「滝保護工」の試験施工に着手するため、崩壊危険箇所へのネット張工等の施工を計画しています。

周辺は溶岩とスコリアの入り混じった荒原裸地で植物もまばらです。次の青沢、箱荒沢、主枝流し、鬼ヶ沢と巡っていくと、低木類のハクサンシャクナゲやハシノキ類がだんだん目立つようになってきます。ここまでが風祭川に流下していきます。

鬼ヶ沢を出ると桜沢、竹沢と横断し樹林帯ではカラマツが目立つようになってきます。

ここまでは足取川に流下します。しばらく歩くと「危険・通行止」の看板が山道に立てられています。この先に「天の浮橋」というガレ場があり、今は橋も落ちて危険ですので通常はこの辺りで引き返します。

不動沢の右岸は4m位の溶岩が壁を作っている手は阻みますが、裂け目を抜けて大沢へ向かいます。カラマツ、タケカンバ、ハシノキ、シャクナゲの樹林帯を下りながら行く「お願いカンバン」があり「勇気を出して引き返して下さい」と書いてあります。この先が昔の「三の越」です。今では鳥居も崩れ落ち三本の古木となつて横たわっています。この断崖の下谷底で当事務所による富士山源頭部調査工事が実施されています。ここからは、標高差250mを下流へ下り工事現場の中を現場の係員に同行して頂き大沢を渡り、もう一回250mの高さをお助け小屋まで上ります。

小屋からさらに西へ御中道を行くと前沢です。この前沢から不動沢までが大沢に合流します。シラビソ、コメツガ、シャクナゲの樹林帯を歩き一番沢、二番沢、仏石流し、滑沢を横断します。これらの沢は芝川へ流下し、富士川へ注ぎます。

今回の調査で大沢以外の沢についても荒廃状況の確認をすることができ、富士宮山岳会の皆様に厚くお礼申し上げます。



富士山大沢扇状地「クイズウォーク」



10月25日(日)今年で4回目となりました「大沢扇状地クイズウォーク」(富士砂防工事事務所および富士宮市の共催)を開催しました。

24日(土)の予定が雨のため順延したことなどもあり参加人数が43名と少なかったものの、快晴の秋空の下、参加者全員約5kmのコースを完歩、クイズに答えて頂きました。

また、大沢沈砂地工と土石破碎ふるい分け機の工事現場を実際に見学し、富士砂防が今行っている事業について理解を深めて頂きました。



【午後は樹林帯の中を歩きました。】



【午前中は広大な扇状地の中を】

郵便はがき

418-8790

静岡県富士宮市
三園平1100

建設省 中部地方建設局
富士砂防工事事務所
広報担当 行



料金受取人払

富士宮局
承認

131

差出有効期間
平成11年6月
30日まで

切手をはらずに
お出し下さい

官庁連携による 労働災害防止の「連絡会議」設置

土石流が頻発する河川で工事を行う場合、労働災害の未然防止のため、所轄は異なっても同じ流域内での各工事間の連絡体制、情報交換、避難監視等の連携は極めて重要です。

管内の砂防工事関係業者と治山工事関係業者7社は「富士山大沢川等工事関係者連絡会議」を設置し、協力して、工事の安全かつ円滑な実施に努めています。



富士労働基準監督署も参加し、合同で源頭部調査工事現場の安全施設パトロール(平成10年11月13日)

平成10年度 管内施設見学の状況 (12月まで)

今年も大勢の方に当事務所管内の砂防設備や大沢崩れ・御中道の見学をしていただきました。案内者の指示に従い事故なく実施できましたことをお礼申し上げます。

10月2日見学の伝法小学校3年生の皆さんより感想文と絵をいただきました。その一部を紹介します。



ぼくは砂防工事が行われていることを初めて知りました。もし、砂防工事が行われていることを知っていたとしても、そんなに工夫して工事をしたりあぶない思いをして毎日やったりしているとは思わなかったと思います。

大沢くずれのようにおそろしいこともあるけど富士山がなかったら水が飲めなくなってしまったかも知れないと思いました。これから、水をむだづかいしないようにします。

昔は、大沢くずれで家がつぶされたり水がはんらんしたりしたけど、今は砂防工事が行われているのでひがいがなくてありがたいとおもいました。

文・曾布川栄太郎

広報誌読者の声お便り募集

(1) 富士山大沢崩れ対策等、富士砂防が実施している事業 についてご意見などをお聞かせ下さい。

(2) 富士山直轄砂防30周年について、ご意見などをお聞かせ下さい。

(3) その他、お気づきの点、ご質問などありましたらお聞かせ下さい。

※お差しつかえがなければご記入下さい。

住 所	〒		
氏 名	年齢	性別	
職 業 (学校名)			

ご協力ありがとうございました。

キ
リ
ト
リ
線

実施日	見学者等	参加人数
4月17日(金)	JICAパキスタン研修員ほか	2名
30日(木)	人穴小学校4～6年生	37名
5月7日(木)	会計検査院技術参事官室	5名
13日(水)	富士市用水委員会	27名
15日(金)	富士根北中学校	56名
18日(月)	日本大学 森林資源科学科	20名
20日(水)	東海財務局	4名
6月10日(水)	富士宮市水防協議会	30名
11日(木)	(社)日本鉄道技術協会ラックレールシステム研究会	18名
26日(金)	黒田小学校4年生	120名
7月1日(水)	静岡県建設業能力開発協会	19名
6日(月)	富士市(市長、地元市会議員ほか)	15名
14日(火)	鳴沢村教育委員会(大沢崩れと御中道)	12名
16日(木)	富士市役所(大沢崩れと御中道)	22名
21日(火)	富士宮自然観察の会(大沢崩れと御中道)	17名
24日(金)	一般公募(大沢崩れと御中道)	24名
29日(水)	中国技術研修団	11名
8月3日(月)	静岡県私立高校理科専門委員会	15名
3日(月)	F.M.大阪東京支社	2名
4日(火)	鳴沢村4年～6年生(大沢崩れと御中道)	12名
5日(水)	市立西富士図書館歴史講座	30名
7～8日(土)	水資源公団職員等	10名
17日(月)	芝川町 内房母親クラブ	22名
18日(火)	一般公募(大沢崩れと御中道)	25名
20日(木)	上野小学校家庭教育学級	53名
9月9日(水)	富士市須津水防団(大沢崩れと御中道)	14名
17日(木)	一般公募(大沢崩れと御中道)	25名
18日(金)	(東日本ブロック)会計課長会議	10名
18日(金)	JICA研修生	11名
28～29日(火)	NHK藤吉解説員ほか	2名
10月2日(金)	富士市伝法小学校3年生	131名
8日(木)	富士宮芙蓉ライオンズクラブ(大沢崩れと御中道)	14名
9日(金)	富士市伝法小学校6年生	143名
11日(日)	日本林学会中部支部会防災セミナー	55名
12日(月)	西小学校家庭教育学級	11名
13～14日(水)	水公団中部支社	4名
14日(水)	一般公募(大沢崩れと御中道)	26名
15日(木)	長崎県防災協議会	36名
15日(木)	長野県小谷村議会等	22名
20日(火)	富丘郷土史研究会(大沢崩れと御中道)	21名
21日(水)	長野県土地開発公社連絡協議会	22名
25日(日)	一般公募(大沢崩れと御中道)	43名
27～28日(水)	東大太田教授ほか	3名
29日(木)	(社)中部建設協会役員	21名
29日(木)	長野県白馬村議会等	20名
11月4日(水)	パキスタン研修生ほか	2名
5日(木)	静岡県建設コンサル協会農林部会	27名
9日(月)	静岡県立中央図書館	4名
11日(水)	東小学校家庭教育学級	19名
11日(水)	関東地建富士川砂防工事事務所	8名
12日(木)	富士宮市母親クラブ	15名
13日(金)	東部地区監査官会議	19名
18日(水)	中国人技術者ほか	2名
19日(木)	東ブロック用地調整官会議	13名
12月7～8日(火)	近畿地建六甲砂防工事事務所	3名
15日(火)	東京農業大学 治山緑化学工研究所	7名
合計	56件	1361名

富士山直轄砂防30周年

国による富士山の砂防工事が開始されてから、平成11年4月で満30年を迎えます。

この間、大沢扇状地における広大な遊砂地を始めとする各種砂防設備の整備が進められてきました。

富士砂防工事事務所では、事務所発足から満30年を迎える平成12年度にかけ、これまでの仕事の内容を振り返ると共に、今後とも富士山の貴重な自然や文化を大切にしたい事業展開をはかって行くための記念行事等を、地域の皆さんと一緒に実施したいと考えています。



昭和44年富士宮砂防出張所

富士山直轄砂防事業 (及び富士砂防工事事務所)の沿革

- 昭和42年 5月 : 政府与党連絡会議、参議院予算委員会で富士山大沢崩れ問題議論
- 6月 : 「富士山大沢崩れ対策懇談会」設置(閣議了解)、固として対策検討開始
- 昭和43年度 : 直轄砂防調査開始(沼津工事事務所)、第一期事業計画策定
- 昭和44年 4月1日 : 富士宮砂防出張所(沼津工事事務所)発足
- (1969) 直轄砂防事業 工事着手
- 昭和45年 4月20日 : 富士砂防工事事務所 発足
- (1970) (富士宮市大宮1196番地の2 富士宮市農業協同組合内)
- 昭和46年 12月1日 : 事務所移転(富士宮市万野原新田2804番地)
- 昭和47年 : 土石流災害の多発を機に「富士山大沢崩れ対策協議会」設置、対策促進
- 昭和48年 : 源頭部調査工事着手
- 昭和49年 : 所掌が「富士山大沢崩れに関する砂防工事」から
- 「富士山の砂防工事」に改正され、南西野溪対策に着手
- 平成元年 2月15日 : 新庁舎完成
- 平成元年 11月1日 : 町名地番変更(富士宮市三園平1100番地)

30年前の昭和44年(1969)・昭和45年(1970)には、こんなことがありました。

・昭和44年(1969)7月 アポロ11号月面着陸

・昭和45年(1970)3月14日から9月13日まで「人類の進歩と平和」をテーマに「日本万国博覧会(EXPO'70)」開催



平成10年砂防工事事務所10大ニュース

- 1 「富士山への手紙・絵コンクール」が全建賞を受賞。(前年の「富士ハートシステム」の受賞に続き2年連続。)
- 2 大沢扇状地の堆積土砂が富士海岸養浜工事等で有効利用されリサイクルのモデルとし脚光をあびる。
- 3 弓沢沈砂地、滝沢第2ダムの南西野溪大規模施設相次いで完成。
- 4 「キャンプ砂防in静岡(狩野川・安倍川・富士山)」開催される。
- 5 管内で例年の2倍の降水量を記録、富士宮市内では湧水被害
- 6 土石流監視システム(CCTV)の整備進み官舎・市役所でも土石流をモニター。
- 7 大型補正予算の追加で事業費55億円突破し過去最大。
- 8 大沢崩れ源頭部対策調査工事・滝保護工の本格的着手に向け準備進む。
- 9 大沢扇状地で無人建設機械の公開実験行う。
- 10 治山と砂防の連携による労働災害防止の「連絡会議」設置される。

情報提供

のお願い

◆土砂災害や砂防に関する古い写真や映像をお持ちの方、また、ご意見、ご質問などありましたら電話又はP.6の葉書でお知らせ下さい。

(連絡先)

富士砂防工事事務所

(地域広報担当:建設監督官永井

又は調査課長奥田まで)

TEL 0544 (27) 5221 (内線542又は351)

ホームページアドレス

メールアドレス

<http://www.fujisabo.go.jp>

chosa@fujisabo.go.jp

■建設省富士砂防工事事務所

〒418-0004 富士宮市三園平1100

TEL 0544 (27) 5221

FAX 0544 (27) 5986

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 富士宮市上井出826-1

TEL 0544 (54) 0236